



平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年11月8日

上場取引所 東

上場会社名 ケンコーマヨネーズ株式会社
コード番号 2915 URL <http://www.kenkomayo.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 炭井 孝志
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 村田 隆
四半期報告書提出予定日 平成25年11月12日 配当支払開始予定日
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

TEL 03-5962-7777
平成25年12月2日

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	28,951	5.7	1,655	3.8	1,561	2.0	910	17.8
25年3月期第2四半期	27,388	6.0	1,594	67.5	1,531	63.7	772	55.1

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 1,105百万円 (42.6%) 25年3月期第2四半期 775百万円 (61.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	64.05	—
25年3月期第2四半期	54.39	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	36,292		15,750		43.4	
25年3月期	33,998		14,801		43.5	

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 15,750百万円 25年3月期 14,801百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	10.00	—	11.00	21.00
26年3月期	—	10.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	11.00	21.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	55,500	1.8	2,720	△2.1	2,580	0.2	1,420	0.8	99.92

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料5ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年3月期2Q	14,211,000 株	25年3月期	14,211,000 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

26年3月期2Q	91 株	25年3月期	91 株
----------	------	--------	------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期2Q	14,210,909 株	25年3月期2Q	14,210,909 株
----------	--------------	----------	--------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は実施中でありませ

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

当社は、以下のとおり機関投資家・アナリスト向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布した決算説明資料等については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

平成25年11月21日(木).....機関投資家・アナリスト向け第2四半期決算説明会(東京)

添付資料の目次

1 . 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2 . サマリー情報（注記事項）に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3 . 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年9月30日)におけるわが国の経済は、株価上昇に伴う消費マインドの改善や雇用環境の持ち直しが個人消費を押し上げたこと、また円安の進行等により企業収益にも改善の兆しが見られたことなど堅調に推移したものとされます。海外の経済につきましては、中国及び新興国で成長ペースに鈍化が見られたこと等の不安要素があり、わが国の輸出にも伸び悩みの影響が見られました。しかしながら、政府により経済成長戦略が進められていることや2020年の東京オリンピック開催が決定したことなど、景気の先行きに明るい兆しが見られます。

このような事業環境の中、当社グループにおきましては、前連結会計年度からスタートしました『中期経営計画(フォース)2012-2014』の指針であります「市場演出型企業としてサラダ市場の演出とサラダ文化の確立」に基づいた5つの成長戦略を掲げており、次のとおり取り組んでおります。

() グローバル企業となる

グローバル企業への成長に向けて、さまざまな展開を進めております。中国におきましては、現地有力企業との合弁会社による事業展開をしておりますが、これは生産拠点を機軸とした現地生産・現地販売という拠点での展開であり、現地での管理体制をより強固なものとし、売上拡大のペースを加速させております。インドネシアにおきましても拠点による事業展開の二か国目として、平成25年10月1日の本稼動に向けて準備を進めてまいりました。この二か国において事業規模の拡大ペースを更に加速させるとともに、日本の食を世界へ広めることを目指し、海外の展示会への出展も積極的に実施するなど、当社の輸出販売事業も拡大させております。

() 事業領域の拡大

世界各地の特徴あるソースをもとに「世界のソース」シリーズとして商品化するとともに、サラダの領域におきましても「世界のサラダ」シリーズを商品化し、「ケンコーサラダワールド」の展開を加速させてまいりました。また個食化という食スタイルの進行への対応として、平成25年9月より「サラダのプロがつくった」サラダシリーズとして、小型形態のロングライフサラダ5アイテムを発売いたしました。この商品はプロの方から認められた味を一般のご家庭にお届けすることをコンセプトとしており、市場への浸透を進めてまいります。

() 「サラダ料理」の確立・情報発信を行い、市場演出型企業としての戦略を実践

サラダ料理の情報発信につきましては、当社コーポレートサイトに「サラダ料理コンテンツ」を開設し、サラダ料理の提案を充実させるなど、市場演出型企業としての存在感をアップさせております。また、昨年11月に発刊しました「Salad Cafeのごちそう!温野菜サラダ」に続き、当社監修のレシピ集の第四弾として、平成25年9月には「ケンコーマヨネーズの最高!マヨレシピ」を発刊しました。「サラダ料理」の推進・浸透と併せて、マヨネーズを活用した様々な食シーンの演出やメニュー提案を行っております。

() サラダカフェブランドの推進・浸透

将来のビジョンとして、サラダカフェ30店舗構想を掲げ、新規出店及び既存店の改装を進めております。店舗を拡大・充実させることでサラダカフェブランド及びサラダ料理の推進・浸透を進めております。またオリジナルドレッシングを発売するとともに、コンビニエンスストアにおいて、サラダやサンドウィッチ等の商品を発売するなどのコラボレーションを展開しております。

() 人材の育成、体制の強化

全社員を対象にした公募型研修制度を始め、さまざまな研修制度の導入や拡充を進めております。また従来より実施しておりましたトレーサビリティの更なる強化を目指して生産管理システムを導入し、併せて生産に係る業務の標準化・効率化も進めております。またITインフラの強化・活用をテーマとして掲げており、ITのセキュリティ強化やeラーニング研修も開始しました。

以上の5つの成長戦略に加えまして、平成24年9月18日に公表しました「新工場建設に関するお知らせ」のとおり、「静岡富士山工場」につきましては、平成26年4月稼働に向けた準備を着実に進めております。この新工場は、当社のタマゴ事業の領域を原料である「殻付き卵」から「タマゴ製品」まで拡げ、すべてに一貫した生産システムを構築するという戦略を実践するものであります。

当第2四半期連結累計期間における売上高及び利益の概況は以下のとおりであります。

売上高

売上高につきましては、従来より進めてまいりました外食等の分野別チームについて、新たなチームを追加するなど業態の細分化・提案対象の拡大により、更に深掘りした分野別個別対策の立案・実行した成果が、売上高増加へ大きく寄与いたしました。またサラダカフェの活用によるグループ相乗効果を高める戦略を進めております。消費者と直接対話ができるショップにおいて「サラダロール」等の特徴ある商品を展開してきたノウハウの活用やウェブサイトを通じて集めた消費者の声をメニュー提案に活かしてまいりました。このメニュー提案力の強化によりお客様との共同試作におきましても、ますます好評をいただくことができ、お客様との関係を更に強固なものとすることができました。その結果、前年同四半期対比で増収を達成するとともに、期初に策定した売上高計画を上回る進捗でありました。

利益

利益につきましては、為替が円安に進行したことにより、原料価格の高騰が想定以上に進んでおり、企業努力のみでは吸収しきれない部分に関しましては、一部商品について価格改定を進めさせていただくとともに、売上高増加による工場の稼働率アップや活動経費の削減等により吸収し、連結営業利益、連結経常利益、連結四半期純利益のいずれも前年同四半期を上回る利益を確保することができました。また期初に策定した利益計画も上回る進捗でありました。これは、当社が進めてまいりました外的環境に左右されにくい経営体質の確立に向けての取り組みの成果であります。今後も安定した利益を生み出し、積極的な投資を継続できる体質へと着実な成長を目指してまいります。

当第2四半期連結累計期間における連結売上高は28,951百万円（前年同四半期比1,562百万円の増加、5.7%増）、連結営業利益は1,655百万円（前年同四半期比60百万円の増加、3.8%増）、連結経常利益

は1,561百万円（前年同四半期比30百万円の増加、2.0%増）、連結四半期純利益は910百万円（前年同四半期比137百万円の増加、17.8%増）となりました。

当第2四半期連結累計期間における各報告セグメントの状況は次のとおりであります。

調味料・加工食品事業

<サラダ・総菜類>につきましては、オニオン、明太子、豆等の素材を活かした商品が外食、コンビニエンスストア向けに新規採用や伸長により増加しました。また、アボカドを使用した商品がコンビニエンスストア向けに新規採用され、和惣菜ではきんぴら商品が好調に推移しました。

<マヨネーズ・ドレッシング類>につきましては、10kg、1kg形態のマヨネーズが製パン、外食、量販店、コンビニエンスストア等様々な分野で採用され、また1L形態の低カロリードレッシングが外食向けを中心に新規採用されました。また「世界のソース」シリーズは更にアイテム数を増やし好調に推移し、増収に寄与いたしました。

<タマゴ加工品>につきましては、サンドウィッチ用や焼成パン用のタマゴサラダ、またお弁当用の厚焼きタマゴが製パン及びコンビニエンスストア向けで新規採用されました。茹で卵では、半熟タイプの商品が量販店、外食向けに伸長し大幅な増収となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は24,209百万円、セグメント利益は1,360百万円となりました。

総菜関連事業等

売上高につきましては、量販店向けの新規採用によりポテトサラダ、パスタサラダの主力商品等が増加したことにより増収となりました。利益につきましては、原材料の高騰影響があるものの、売上高の増加による稼働率アップや生産効率の改善、経費削減等のコストダウンの取り組みにより増益となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は4,154百万円、セグメント利益は331百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、36,292百万円（前連結会計年度比2,293百万円の増加、6.7%増）となりました。これは、主に現金及び預金が1,200百万円増加、建設仮勘定が1,787百万円増加したこと等によるものであります。

(負債の部)

当第2四半期連結会計期間末における負債は、20,541百万円（前連結会計年度比1,343百万円の増加、7.0%増）となりました。これは、主に長期借入金が増加したこと等によるものであります。

(純資産の部)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、15,750百万円（前連結会計年度比949百万円の増加、6.4%増）となりました。

(自己資本比率)

当第2四半期連結会計期間末における、自己資本比率は43.4% (前連結会計年度比0.1ポイント減)となりました。

キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、7,119百万円(前連結会計年度末比20.3%増)となりました。当第2四半期連結累計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、730百万円(前年同四半期比794百万円の減少)となりました。これは、主として税金等調整前四半期純利益1,558百万円、法人税等の支払額704百万円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、523百万円(前年同四半期比8百万円の使用資金の増加)となりました。これは、主として有形固定資産の取得による支出490百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、993百万円(前年同四半期比654百万円の増加)となりました。これは、主に長期借入れによる収入2,442百万円、長期借入金の返済による支出991百万円等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成25年5月9日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

連結子会社における税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,919	7,119
受取手形及び売掛金	9,907	9,524
商品及び製品	1,306	1,275
仕掛品	19	17
原材料及び貯蔵品	733	691
繰延税金資産	393	364
その他	123	147
貸倒引当金	1	0
流動資産合計	18,403	19,139
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,334	4,231
機械装置及び運搬具(純額)	2,727	2,575
土地	4,987	4,989
建設仮勘定	30	1,817
その他(純額)	274	252
有形固定資産合計	12,355	13,865
無形固定資産		
無形固定資産合計	384	363
投資その他の資産		
繰延税金資産	300	278
その他	2,599	2,682
貸倒引当金	44	38
投資その他の資産合計	2,855	2,922
固定資産合計	15,595	17,152
資産合計	33,998	36,292

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,042	7,381
1年内返済予定の長期借入金	995	1,193
未払法人税等	749	647
賞与引当金	381	393
その他の引当金	26	124
その他	4,053	4,816
流動負債合計	14,249	14,558
固定負債		
長期借入金	3,183	4,435
退職給付引当金	648	657
その他の引当金	163	181
その他	952	709
固定負債合計	4,948	5,983
負債合計	19,197	20,541
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,180	2,180
資本剰余金	2,448	2,448
利益剰余金	9,772	10,526
自己株式	0	0
株主資本合計	14,401	15,155
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	359	448
為替換算調整勘定	40	146
その他の包括利益累計額合計	400	595
純資産合計	14,801	15,750
負債純資産合計	33,998	36,292

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	27,388	28,951
売上原価	19,761	21,089
売上総利益	7,627	7,862
販売費及び一般管理費	6,032	6,207
営業利益	1,594	1,655
営業外収益		
受取利息	0	1
受取配当金	9	15
その他	46	57
営業外収益合計	56	73
営業外費用		
支払利息	32	36
持分法による投資損失	82	124
その他	4	5
営業外費用合計	119	167
経常利益	1,531	1,561
特別利益		
投資有価証券売却益	2	1
特別利益合計	2	1
特別損失		
固定資産除却損	2	4
減損損失	166	0
特別損失合計	168	5
税金等調整前四半期純利益	1,365	1,558
法人税、住民税及び事業税	614	623
法人税等調整額	20	24
法人税等合計	593	648
少数株主損益調整前四半期純利益	772	910
四半期純利益	772	910

(四半期連結包括利益計算書)
 (第 2 四半期連結累計期間)

(単位 : 百万円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年 9 月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	772	910
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	21	89
繰延ヘッジ損益	0	-
持分法適用会社に対する持分相当額	24	106
その他の包括利益合計	2	195
四半期包括利益	775	1,105
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	775	1,105
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,365	1,558
減価償却費	486	478
減損損失	166	0
引当金の増減額(は減少)	157	130
受取利息及び受取配当金	9	16
支払利息	32	36
売上債権の増減額(は増加)	832	383
たな卸資産の増減額(は増加)	184	74
仕入債務の増減額(は減少)	661	660
未払金の増減額(は減少)	63	407
その他	148	121
小計	1,928	1,455
利息及び配当金の受取額	9	16
利息の支払額	32	37
法人税等の支払額	381	704
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,524	730
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	193	490
無形固定資産の取得による支出	88	36
関係会社株式の取得による支出	241	-
その他	7	4
投資活動によるキャッシュ・フロー	514	523
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	1,008	2,442
長期借入金の返済による支出	364	991
配当金の支払額	283	156
割賦取引による収入	294	26
割賦債務の返済による支出	311	324
その他	5	2
財務活動によるキャッシュ・フロー	338	993
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,348	1,200
現金及び現金同等物の期首残高	4,017	5,919
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,365	7,119

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

セグメント情報

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	調味料・ 加工食品事業	総菜関連 事業等	計				
売上高							
外部顧客に対する売上高	23,237	3,630	26,867	521	27,388	-	27,388
セグメント間の 内部売上高又は振替高	223	4,158	4,381	-	4,381	4,381	-
計	23,460	7,789	31,249	521	31,770	4,381	27,388
セグメント利益又は損失()	1,472	173	1,646	99	1,546	15	1,531

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業、海外事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失()の調整額 15百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	調味料・ 加工食品事業	総菜関連 事業等	計				
売上高							
外部顧客に対する売上高	24,209	4,154	28,363	587	28,951	-	28,951
セグメント間の 内部売上高又は振替高	247	4,418	4,665	-	4,665	4,665	-
計	24,457	8,572	33,029	587	33,617	4,665	28,951
セグメント利益又は損失()	1,360	331	1,692	117	1,575	13	1,561

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業、海外事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失()の調整額 13百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。